

広島県教育委員会表彰

◇ 広島県教育賞

学校教育、社会教育、体育・スポーツ、地域文化、教育行政分野を対象に、功績が特に顕著なものを、広島県教育委員会が表彰するものです。

年度	氏名 (受賞時所属及び職名)	功績等
令和3年度	亀井 伸幸 (吉名学園校長)	複数の中学校長を経て、平成30年度、竹原市初の義務教育学校「吉名学園」の初代校長に着任した。 同園では、創設以来、総合的な学習の時間「YOSHINA 未来学」に取り組み、学校と地域が一体となった教育活動を具現化し、体系的なカリキュラムを構築している。令和2年度からはコミュニティ・スクールをスタートして、児童生徒の学習の場を学校運営協議会と意図的に連携させる等、その活用や効果を活かした取組を推進している。 また、豊田竹原中学校校長会の会長として、各中学校の学校経営の向上及び人材育成を中心に、研修や事例交流等を実施している。
令和4年度	北村 洋子 (賀茂川中学校校長)	忠海小中学校では、平成28年度から2年間、広島県道徳教育改善充実総合対策事業の指定校として道徳教育の研究を積み上げ、平成30年度には広島県教育研究大会道徳部会の会場校として実践を公開し、小中一貫校の強みを生かした先進的实践事例を県内に発信した。 賀茂川中学校では、学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとして学校と家庭・地域が一体となった教育活動を具現化し、グローバルな視点を持ちながら、ふるさと「賀茂川」を愛し地域貢献できる生徒の育成に尽力している。 また、「話し合い活動を主軸とした生徒の自発的・自治的活動」に焦点を当てた特別活動や総合的な学習の時間を中核に、生徒の主体的な学びを生み出すキャリア教育を推進した。

◇ 広島県教育奨励賞

学校教育、社会教育、体育・スポーツ、地域文化、教育行政分野を対象に、成果等が他の模範として推奨できるものを、広島県教育委員会が表彰するものです。

年度	氏名・学校名 (受賞時所属及び職名)	功績等
令和2年度	有松 浩司 (吉名学園教諭)	国語教育をはじめ ICT 活用教育で研究を重ね、県内はもとより全国の研究大会や研修会で講師として自らの実践を発表した。 現任校では広島県中学校教育研究会（視聴覚部会）の指定を受け、研究主任として ICT 活用教育を学園の中心となって進め、研究の推進に貢献した。
令和4年度	吉名学園 (校長 亀井 伸幸)	各学年で身に付けるべき ICT 活用力やプレゼンテーション力を系統的に整理するとともに、地域資源や地域の人材を効果的に活用した学習活動と ICT 活用力やプレゼンテーション力を組み合わせた特色あるカリキュラム「YOSHINA 未来学」を作成し、社会に開かれた教育課程の実現を目指した取組を進めてきた。 また、地域実態に基づき、SDG s 等のグローバルな視点への発展を企図した研究を進めている。 令和4年度は学習者起点の学びの一層の充実を目指し、児童生徒によってより必然性のある課題解決型の学習への改善や、評価の検証による指導と評価の改善により、カリキュラムの更なる充実に取り組んでいる。 これらの取組について、県内外の学校や教育委員会の視察を受けるなど、研究の普及に努めている。
令和6年度	中野 愛 (竹原西小学校教諭)	平成30年度から「小学校外国語パワーアップ事業」のリーダーとして実践と活動を重ね、令和3年度からは竹原中学校区内の4小学校を兼務して外国語指導に尽力した。 また、市内研修会や他市からの視察で先進的な授業を公開し、その指導力が高く評価された。 令和5年度には読書活動と関連させた外国語活動を広島県学校図書館研究大会で提案し、外国語活動の可能性を広げるとともに、参加者に読書活動の有用性を実感させた。 日々の授業では場面設定や内容の工夫を行い、「書く」「話す」など表現活動に重点を置いた指導を実施した結果、児童の意欲が高まり、竹原市内及び広島県全体の外国語教育導入期に大きく寄与した。